

4

結婚、出産、子育てをめぐる状況

結婚に対する意識

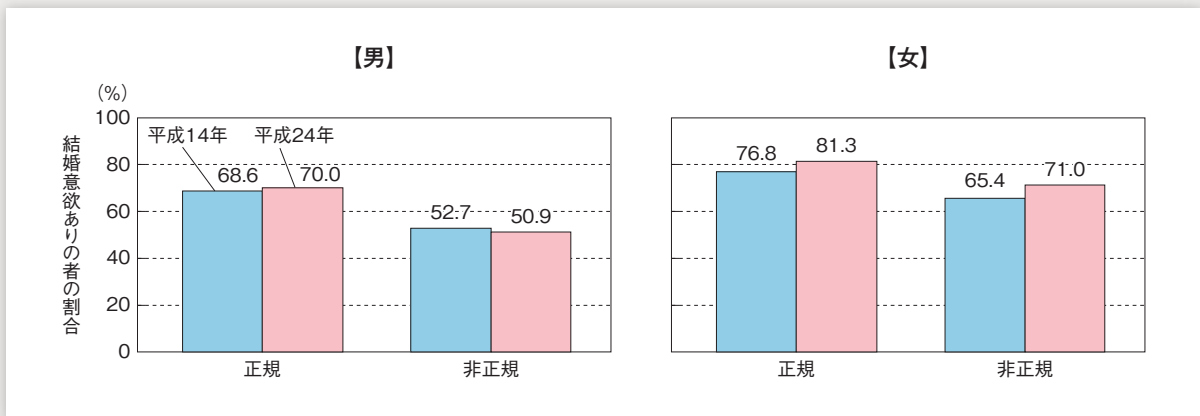
第1回21世紀成年者縦断調査（平成24年成年者）及び第11回21世紀成年者縦断調査（平成14年成年者）について、両調査の第1

回調査時点の20代既卒の独身男女の結婚意欲がある者の割合を性、正規・非正規別にみると、10年前に比べ女性は「正規」「非正規」とともに増加している。

第1回21世紀成年者縦断調査（平成24年成年者）について、20代既卒の独身男女の交際異性の有無を性別、正規・非正規別にみると、男女とも、「正規」は「非正規」の者

第1-1-11

性、正規・非正規別にみた20代独身者の結婚意欲ありの者の割合【14年調査（第1回）・24年調査（第1回）】

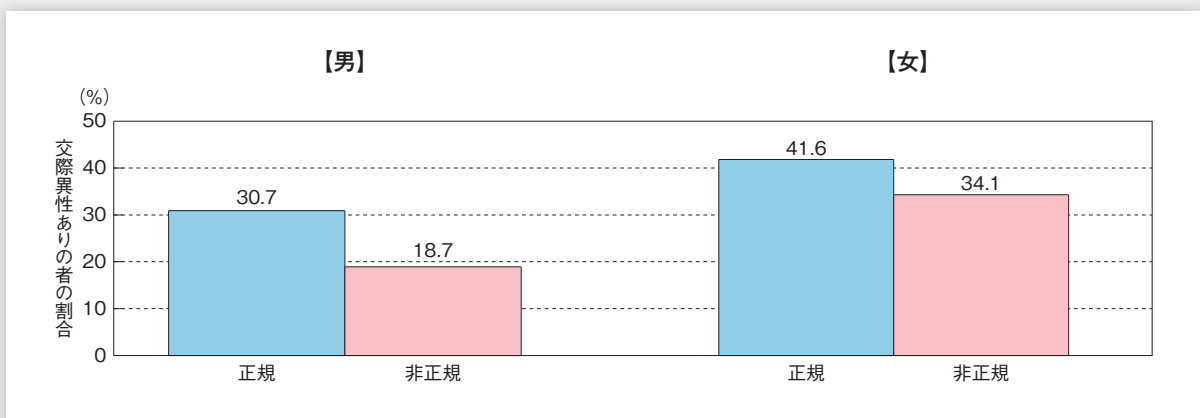


資料：厚生労働省「第1回21世紀成年者縦断調査（平成24年成年者）及び第11回21世紀成年者縦断調査（平成14年成年者）の概況」

注：「結婚意欲あり」は「絶対したい」「なるべくしたい」と回答した者を合計している。

第1-1-12

性、正規・非正規別にみた20代独身者の交際異性ありの者の割合【24年調査（第1回）】



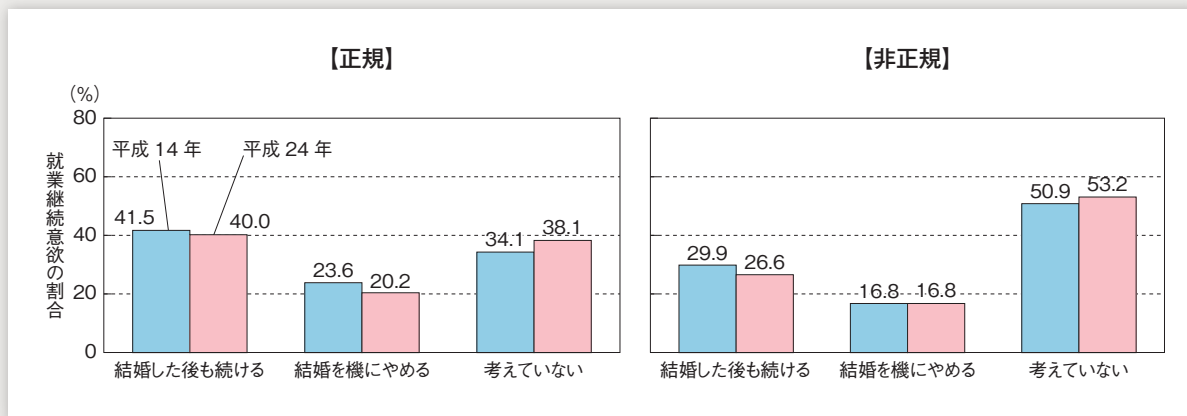
資料：厚生労働省「第1回21世紀成年者縦断調査（平成24年成年者）及び第11回21世紀成年者縦断調査（平成14年成年者）の概況」

に比べ、「交際異性あり」と回答した者の割合が高くなっている。

第1回21世紀成年者縦断調査（平成24年成年者）及び第11回21世紀成年者縦断調査（平成14年成年者）について、それぞれの調査の第1回調査時点の20代既卒の独身女性の

結婚後の就業継続意欲の状況を正規・非正規別にみると、10年前に比べ「正規」では「結婚を機にやめる」が減少、「考えていない」が増加し、「非正規」では「結婚した後も続ける」が減少している。

第1-1-13図 正規・非正規別にみた20代独身女性の結婚後の就業継続意欲別の状況【14年調査（第1回）・24年調査（第1回）】



資料：厚生労働省「第1回21世紀成年者縦断調査（平成24年成年者）及び第11回21世紀成年者縦断調査（平成14年成年者）の概況」

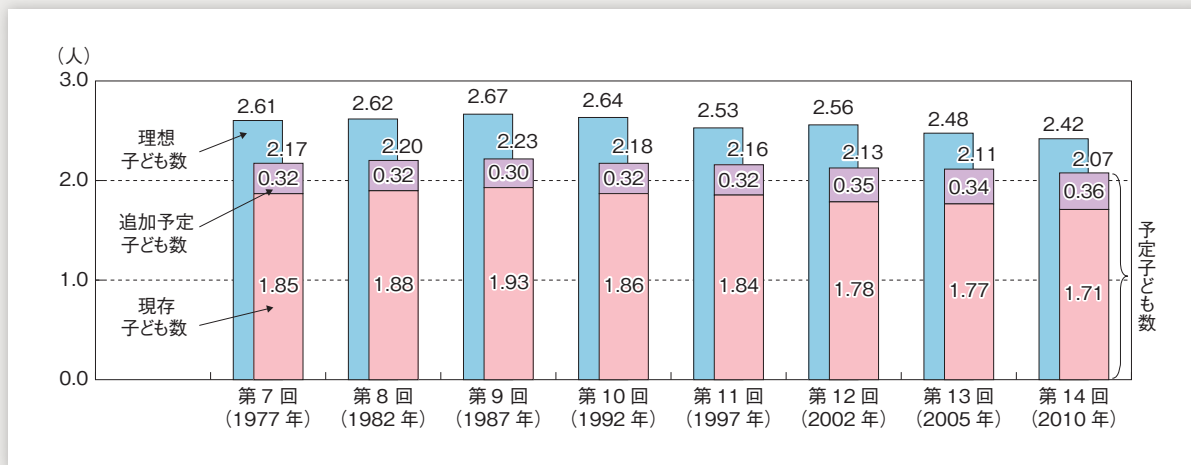
出産に対する意識

国立社会保障・人口問題研究所が実施した「第14回出生動向基本調査結婚と出産に関する全国調査（夫婦調査）」(2011年)によると、夫婦にたずねた理想的な子どもの数（平均理想子ども数）は、前回の第13回調査に引き続き低下し、調査開始以降最も低い2.42人となった。また、夫婦が実際に持つつもりの子どもの数（平均予定子ども数）も、2.1を下

回り、2.07人となっている。

理想の子ども数を持たない理由として、最も多いのが、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(60.4%)であり、年代別にみると、若い世代ほど割合が高くなる傾向がみられる。次に多いのが、「高年齢で生むのはいやだから」(35.1%)であり、年代別にみると、年代が高くなるほど、割合が高くなる傾向がみられる。

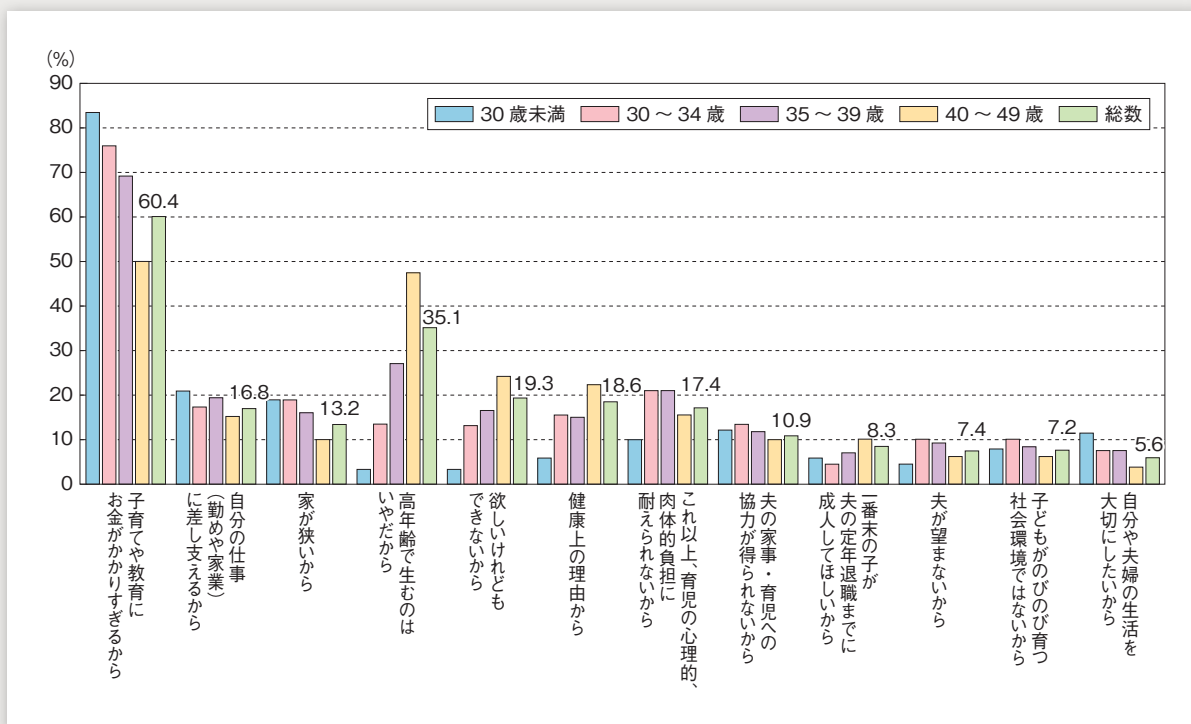
第1-1-14図 調査別にみた、平均理想子ども数と平均予定子ども数の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（夫婦調査）」（2011年）

注：対象は妻の年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数の和として算出。総数には結婚持続期間不詳を含む。各調査の年は調査を実施した年である。

第1-1-15図 妻の年齢別にみた、理想の子ども数を持たない理由



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（夫婦調査）」（2011年）

注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの夫婦。予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦の割合は32.7%。

若い世代などの所得の伸び悩み

20代、30代といった子育て世代の所得分布をみると、20代では、1997（平成9）年には年収が300万円台の雇用者の割合が突出して最も多く、2012（平成24）年でも最も多いが、200万円台前半の雇用者とほぼ同じ割

合となっている。また、30代では、1997年には年収が500～699万円の雇用者の割合が最も多かったが、2012年には300万円台の雇用者が最も多くなっている。子育て世代の所得分布は、1997年から2007年の10年間で低所得層にシフトし、その後、その状態が続いていることがわかる。

第1-1-16図 子育て世代の所得分布

